

茨城県の景気判断を据え置きました
～茨城県経済は、緩やかに回復しつつあります～

みなさん、こんにちは。いつも、このサイトをご覧くださいありがとうございます。私どもでは、茨城県における最新の金融経済情報を提供しております。公表されている指標は実態としては数か月前までのものですが、日銀水戸事務所作成の茨城県金融経済概況公表日の前営業日までに、企業等から聴取した情報も踏まえて判断しております。この紙面では、県内景気判断の背景となった考え方などを、簡潔に、可能な限りわかりやすく解説しますので、どうぞご利用ください。

11月8日に公表しました茨城県金融経済概況では、県内の景気情勢を、生産面に弱い動きがみられるものの、基調的には「緩やかに回復しつつある」として、判断を据え置きました。

個人消費についてみると、百貨店・スーパー販売額（9月）は、2か月連続で前年を下回り、前年比 Δ 2.2%となりました。9月は長雨が続いたほか、気温が高めであったことから、秋冬物衣料の動きが鈍かったほか、野菜類の高騰から食料品でも、生活防衛的に買い上げ点数を減らす動きがみられたことが主因です。また、乗用車新車登録台数は、前年に水害の影響から一時的に販売台数が膨らんだ裏が出るかたちで、4か月振りに前年比マイナスとなりました。この間、家電販売では白物家電が持ち直しているほか、テレビや新型スマートフォンの売れ行きもこのところ好調のようです。天候要因等から、個人消費の一部にもたつきがみられますが、全体としては底堅く推移しているものと判断しています。

住宅投資については、新設住宅着工戸数のうち、持家が10か月連続で前年比プラスを維持するなど好調さを持続しているほか、貸家系も9月は高い伸びとなり、全体でも高めの伸びとなりました。低金利環境の下で、全体として持ち直しの動きが続いています。

公共投資については、公共工事の前倒し発注方針の下で、県を中心に発注が積み上がっており、請負金額ベースでみて5か月連続前年比は二桁増となっています。今後、前倒し発注の反動減に転じる可能性があります。暫くは上期発注分の工事が続くことから、全体としては持ち直しつつあるものとみています。

この間、生産については、8月の鉱工業生産指数（季節調整値）は、小幅ではありますが3か月連続で前月比プラスとなり、前年比でも14か月振りにプラスとなりました。もっとも直近のピーク（27年5月）と比較すると1割方下回る水準であり、なお弱めの動きに止まっていると評価しています。

新興国経済の減速に伴う輸出の減少から、当面は製造業の生産活動には弱さが残るとみ

られますが、県内経済は、住宅投資や経済対策に伴う公共投資など国内需要に支えられるかたちで、今後も緩やかな回復基調が続くとみています。

2016年11月8日
日本銀行水戸事務所長

鶴屋 洋一郎